

# 老朽化する公共施設への取り組み

## ～三島市公共施設白書が完成～

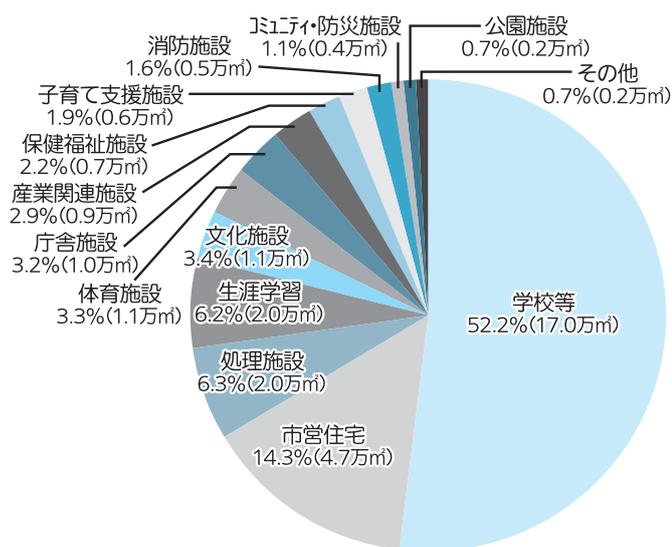
市では、市民サービスの向上と都市機能の充実を図るため、これまでに小、中学校の義務教育施設をはじめ、福祉、社会教育、スポーツ、市営住宅などのさまざまな公共施設（建物）を整備してきました。これら施設の約50%は建築後30年以上を経過しており、将来、改修や建て替えが集中して発生することが見込まれます。

**公共施設白書とは**、市が保有する施設（建物）の全体像を量（ストック）、管理運営経費（コスト）、利用状況（サービス）などから明らかにしたもので、施設の現状や課題などの情報を市民の皆さんと共有し、今後の公共施設の適正な配置や効果的・効率的な管理運営を検討するための基礎資料として作成したものです。

### 公共施設（建物）を取り巻く現状と課題

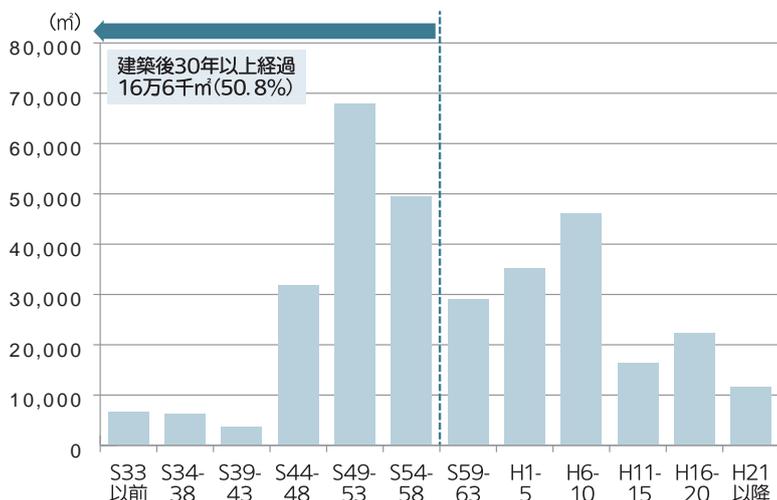
#### 保有状況と年度別整備状況

〔図① 施設用途別の延床面積比率（H25.3.31現在）〕



市が保有する施設（建物）は187施設、建物数658棟、延床面積の合計は約32万6千㎡となります。また、施設用途別に分類すると、延床面積が最も大きいのは学校等施設の約17万㎡で全体の52.2%を占め、次に市営住宅施設が14.3%となっています。（図①）

〔図② 建築年度別整備状況（延床面積）〕



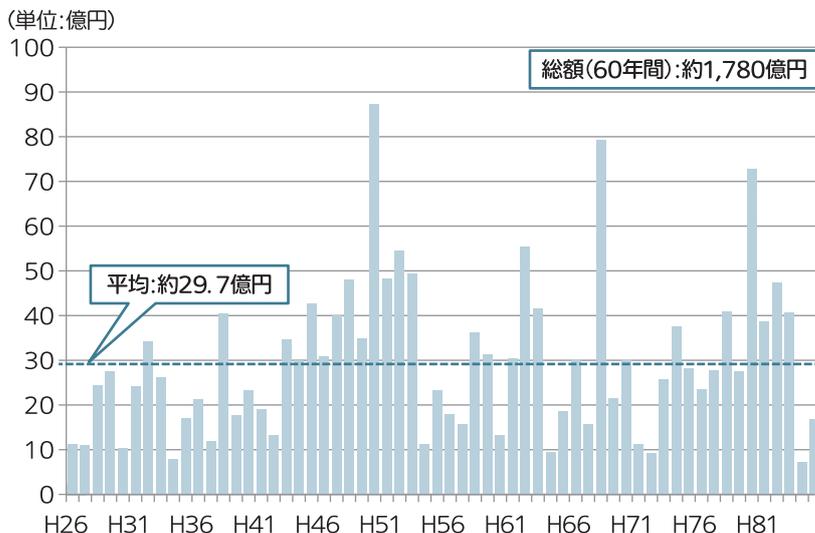
これらの施設は、昭和40年代後半から50年代半ばにかけて多く整備しており、延床面積で見ると、全体の50.8%にあたる約16万6千㎡を昭和58年までに建築しています。（図②）大規模改修の目安である建築後30年以上を経過し、老朽化が進んでいるため、改修や建て替えなどの時期を迎えています。

## 将来更新費用と人口の推計

市が保有する建物施設について、一定の条件の下で、建て替えや改修などを行った場合の更新費用を試算したところ、今後60年間に総額で約1,780億円、年間平均で約29.7億円が必要という結果になりました。(図③) 10年ごとに区切ってみると、昭和40年代後半から50年代半ばに整備された施設の建て替えのピークを迎える平成46年度から55年度にかけて多くの費用が集中し、平成50年度には年間で約87.2億円が必要になると推計されます。

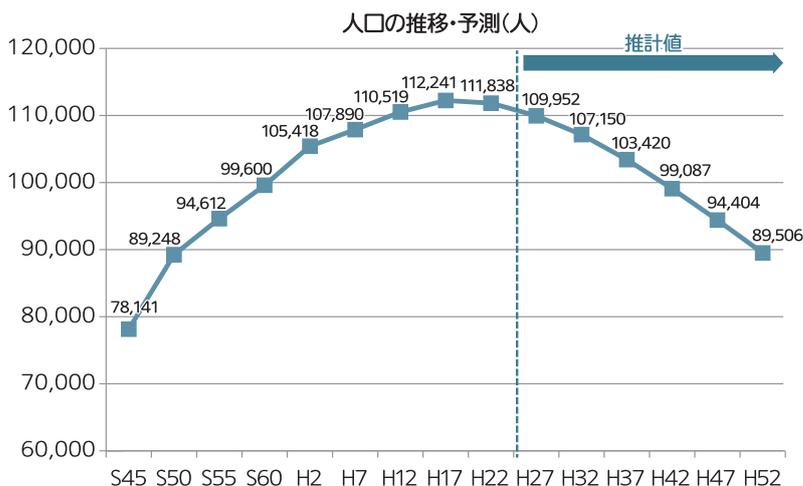
なお、平成24年度の建物に係る公共施設整備に要した経費(投資的経費)は10億円程度で、中長期的には改修や建て替え費用の不足が想定されます。

〔図③ 更新費用推計結果(60年間)〕



**将来の人口** 国立社会保障・人口問題研究所が平成25年3月に公表した人口の将来推計では、三島市の人口は平成42年には10万人を下回り、平成52年には約8万9千人になると推計されています。(図④) また、生産年齢人口(15~64歳)の減少に伴い税収(自主財源)の伸びが今後も期待できない厳しい状況であること、高齢化の進行によって社会保障費が年々増加することなどが見込まれ、公共施設の整備費や維持補修費の確保が難しくなることが想定されます。

〔図④ 将来人口の推計結果〕



## 今後のあり方を探る

これからの人口減少時代にどのように対応していくかは、全国的な課題となっています。三島市においても、人口・財政の問題をはじめ、集中する改修・建て替え時期、老朽化に伴う維持管理コストの増加などさまざまな課題があります。

また、人口減少、少子高齢化の進行により、余剰施設が発生する一方で、高齢者を対象とした福祉施設や生涯学習施設の需要が高まるなど、公共施設へのニーズが変化することが予想されます。市では公共施設白書で明らかとなった点を踏まえ、長期的な視点に立ち

対応方針を市民の皆さんと共に検討するため、引き続き、「(仮称)公共施設保全計画基本方針」や「(仮称)公共施設保全計画」の策定作業に入り、市の公共施設のあり方や施設運営などについて検討を進めていきます。

### 公共施設白書を見てみよう!

公共施設白書は、市役所情報公開コーナー、図書館本館および中郷分館、市ホームページで閲覧できます。

問合せ 政策企画課 (☎983-2698)